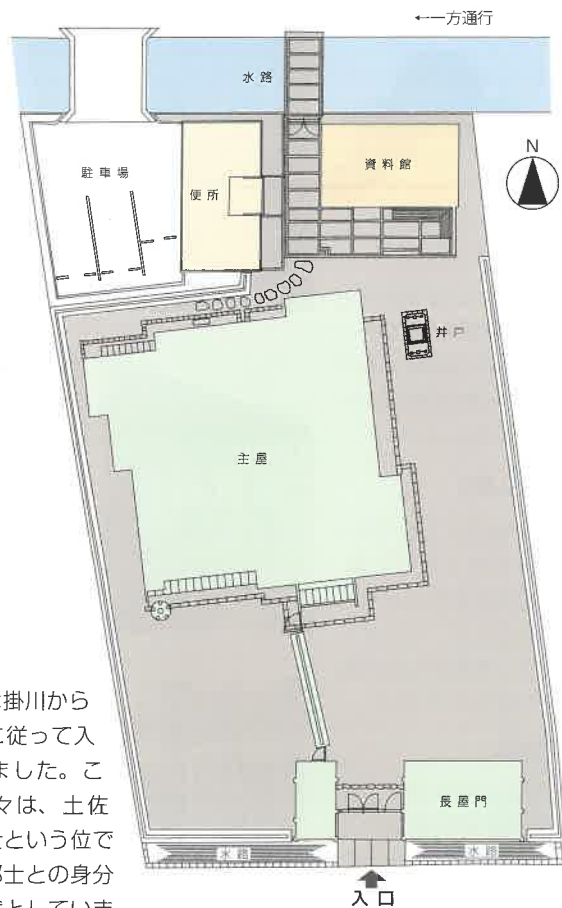


■大川筋武家屋敷見取図



手嶋家は掛川から山内一豊に従って入国してきました。こうした人々は、土佐藩では上士という位で呼ばれ、郷土との身分の差は歴然としていました。

手嶋家は家禄が250石で、上士の中では中くらいの武士です。屋敷地はもとはもっと広く、畑を作って野菜を自給していたと思われるが、明治維新以降持ち主も変わり、今の面積になりました。

復原工事は、限られた敷地の中でできるだけ藩政末期の形態に近づけることを目標として進められ、平成10年に完成しました。

◇旧手嶋家住宅の保存に至る経過
平成2年

- ・大川筋武家屋敷保存会発足
- ・市への陳情・募金・チャリティコンサートなどによる保存運動開始

平成7年

(社)高知県建築士会による調査

平成8年

- ・高知市保護有形文化財に指定

- ・大川筋武家屋敷保存期成会に募金活動が引き継がれる

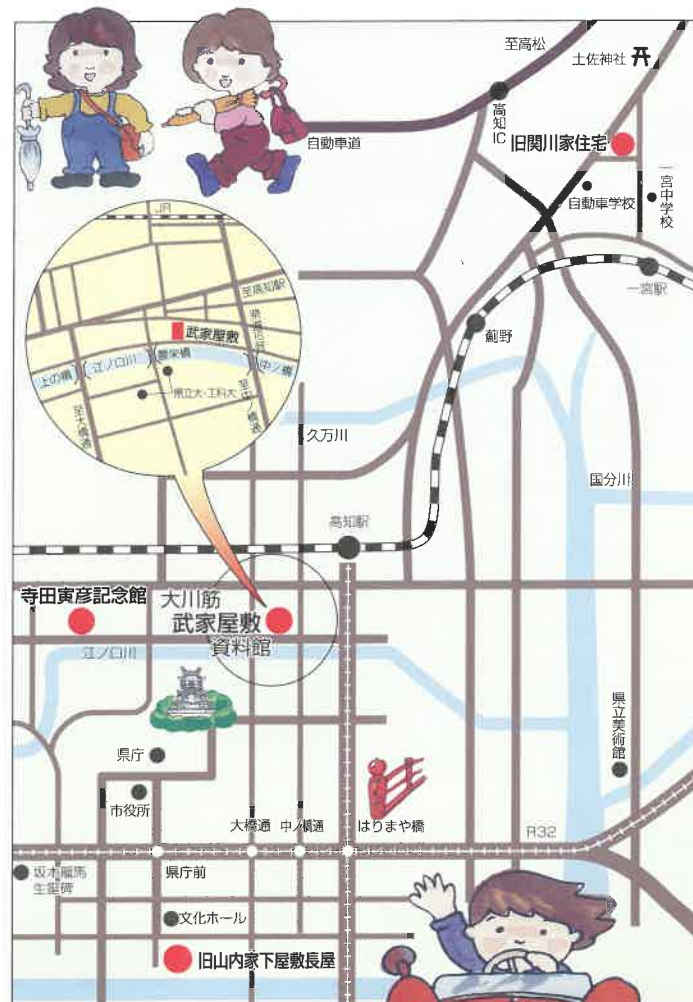
- ・土地が公有化される

平成9年

- ・復原整備事業着手

平成11年4月

- ・高知市大川筋武家屋敷資料館として開館



展示館のご案内

休館日 毎水曜日・年末年始(12月27日～1月3日)
※環境整備のために臨時に休館することがあります。

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料

所在地 高知市大川筋2丁目2番15号
電話(088)871-7565

お問合せ●高知市民権・文化財課

〒781-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL(088)832-7277



高知市



●書院造り

武家の住宅の典型的な造りで、付け書院や畳を敷き詰めた床（ゆか）、外光を取り入れた建具類などが特徴です。現代の住宅に引き継がれている部分の多い様式です。



●釘隠し

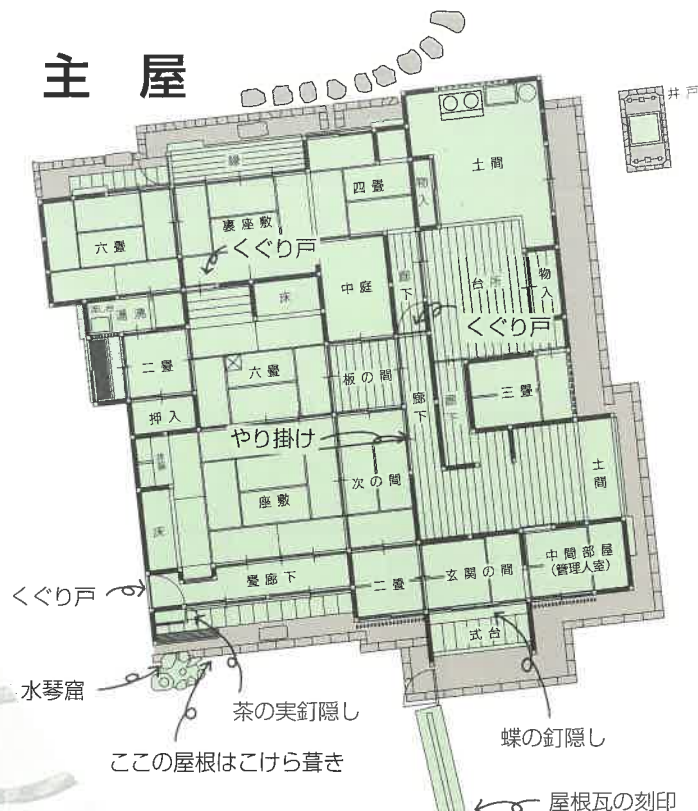
長押などを釘で固定すると、釘の頭が見えます。これを隠すためにできた飾りが釘隠しです。ここには、一般的な六葉の他に、蝶（左上）、茶の実（左下）等の可愛い意匠が見られます。

■主屋・長屋門展示について

武士が住んでいたときの様子を推定して家具・調度類を置いています。家族は、主人と妻、元服した息子とその妹という想定です。

※ 旧手嶋家の元の敷地は今より広く、西側に広がっていました。風呂や便所などもその部分にあったと考えられています。

主屋



●くぐり戸

接客用の空間と、日常的に家族が使う空間を分ける工夫のひとつ。襖の表紙や把手等に違いを作っているのもそのためです。



●水琴窟

底に穴をあけた瓶（かめ）を逆さまにして地中に埋めてあります。穴からしたたり落ちる水が反響して美しい音を立てるため、風流人に好まれました。

長屋門



●長屋門

3畳の部屋が4つあり、この屋敷の使用人が暮らしていました。もとの水路を再現するために、長屋門を1メートル北側に寄せて復原しました。



●長屋門の窓

武者窓、与力窓、突き上げ窓の3種類の窓があります。公道に向かって開かれているため、防御的な作りになっています。門の脇の突き上げ式の小窓から来客を確認していたのでしょう。

資料館



●井戸

以前に住んでいた方への聞き取り調査をもとに作ったものです。ほかにも敷地の北西部にもうひとつ井戸がありました。

●こけら葺き

瓦が普及するまでは、こけら葺きと呼ばれる、木の薄板を重ねた屋根が一般的でした。その美しさから、表座敷の南の軒部分に使われています。

●屋根瓦

軒瓦には右のような刻印がみられます。これは瓦の製造元を表しています。



土間

